

(2) 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和5年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名：環境生活部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県環境学習情報センター (四日市市桜町 3684-11)
指定管理者の名称等	アクティオ株式会社 代表取締役社長 淡野 文孝 (東京都目黒区東山 1 丁目 5 番地 4 号 KDX 中目黒ビル 6 階)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 環境の保全に関する普及啓発を行うこと 2 環境の保全に関する研修会、講習会等を行うこと 3 環境に関する情報の収集及び提供を行うこと 4 環境の保全に関する活動の促進及び交流等を図ること 5 その他（施設等の維持管理及び修繕に関すること等）

2 施設設置者としての県の評価 ※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R4	R5	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	A	A			県民に開かれた環境教育・環境学習、情報受発信の拠点として各種講座、情報提供、展示等を充実させ、子どもから大人まで幅広く利用できる施設としての役割を果たしている。
2 施設の利用状況	A	B			令和5年度の施設利用者数は20,826人であり、大規模イベントを開催できなかったこと等から目標(32,000人)を下回ったが、講座や社会見学など児童・生徒を中心に環境について学ぶ機会を提供している。また、県民が自発的に行う環境保全に関する活動を促進するため貸室や環境教育教材の貸出を実施している。
3 成果目標及びその実績	B	B			「環境学習地域リーダー養成を目的とした講座受講者数」については、前年度は未達成であったが、オンライン講座の拡充等により受講者が増加したことにより目標(1,500人)を達成し、達成すべき成果目標5項目中、「環境教育参加者数」を除く4項目について目標を達成した。

※「評価の項目」の県の評価:

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価

(1) 成果目標に対する達成度

- ・成果目標5項目のうち「環境教育参加者数」の1項目については、近隣の県施設が廃止され大規模イベントを開催できなかったこと等から未達成となったものの、「児童・生徒を対象とした環境教育参加者数」は11,466人と目標10,000人を達成した。
- ・「環境学習地域リーダー養成を目的とした講座受講者数」は1,680人（前年度1,459人）となり、目標1,500人を達成し、「環境活動を協働した環境団体数」は令和7年度までの目標25団体を前倒しで達成した。
- ・「講座を通じて自発的に環境活動に取り組む意向を示した講座参加者の割合」は98.9%であり、目標の95%以上を達成した。

(2) 残されている課題

- ・より幅広い層に対する講座等の開催に向けて、さらにオンラインでの講座の拡充等に取り組む必要がある。
- ・カーボンニュートラル等、環境に関する新たな情報を取り入れるなど、展示や情報の更新が必要である。
- ・利用者を世代別に見ると、児童・生徒が半数以上を占めており、子どものころから知識だけでなく、体験を通じた環境問題への気づき、環境保全への行動を引き出していくような仕掛けづくりをしていく必要がある。

(3) 翌年度に取り組むべき成果目標の設定

- ・他団体と連携し、環境教育参加者数の増加に向けて、講座等の拡充に取り組む必要がある。
- ・アンケートの結果等を活用し、県民のニーズを踏まえた取組を実施することで、施設利用者の満足度の維持向上に努める必要がある。

(4) その他

①県民ニーズの把握

- ・講座の参加者等に対し、アンケート調査を行い、県民のニーズを把握し、サービス改善を図っている。アンケートの結果、講座を通じて自発的に環境活動に取り組む意向を示した講座参加者の割合は98.9%と高い水準を示している。

②県民のサービス向上の成果

- ・イベントの開催・出展、社会見学の受入れ、県内各地での主催講座や出前講座の開催、県内環境団体との連携、様々な媒体を用いた情報発信、施設や図書等の維持管理が適切に行われている。
- ・ホームページのリニューアルやオンラインで主催講座に申し込めるよう対応するなど、工夫している。
- ・オンライン講座も実施し、県民が場所や時間に制限されることなく、環境学習に取り組む機会を提供している。
- ・環境情報の収集・発信については、得られた情報を講座に組み入れて提供するとともに、講座やイベントの開催等について、情報誌「環境学習みえ」やホームページ、メールマガジン、SNS等により積極的に情報を発信している。

③施設の適正な維持管理の実施

- ・毎月センターから提出される管理運営報告を確認するとともに、指定管理業務について年2回モニタリングを実施し、概ね適正に処理されていることを確認した。

以上のことから、三重県環境学習情報センターの管理者として、適切な実績を残していると評価できる。今後も引き続き、成果目標の達成に向け、県内環境団体とのネットワークやセンター職員が持つノウハウを生かし、環境学習・環境教育の一層の充実と適切な施設運営を進められることを期待する。

<指定管理者の評価・報告書(令和5年度分)>

指定管理者の名称：アクティオ株式会社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県環境学習情報センターの管理事業の実施に関する業務

- ・三重県環境学習情報センターの管理事業の実施にあたっては、基本協定書および年度協定書の管理業務(業務計画書)に基づき、環境教育の普及・啓発と県民サービスの向上に努めた。
- ・5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、他の感染症を含む感染症対策として自由に使えるアルコールの設置は継続し、センター玄関ホールや主催講座の受付付近で使えるようにした。

a. 展示施設管理

- ・展示施設等の維持管理業務では、展示室の維持管理、研修室等の貸室業務、図書の管理業務を実施した。
- ・手指消毒用アルコールの玄関ホールへの設置を令和4年度より継続し、来館者が自由に使えるようにした。
- ・貸室利用は24件であった。

b. 環境講座

- ・小中学校に向けて、年度当初に施設の利用案内を行ったところ、学校の来館による施設見学と環境講座は50校、6,110人が受講した。
- ・主催講座については、感染症対策として受付付近にアルコールを設置し自由に使えるようにしたり、窓を開けて換気したりなどの対策を行った。
- ・主な主催講座として「環境基礎講座(全5回)」「ESD実践講座」などを開催し、その他のセンター主催講座と併せて113回、2,481人が受講した(前年度比17.1%増)。各講座の開催にあたっては、県内各地の施設や団体との協働にも努めた。
- ・県内各地へ出張して実施する出前講座は、133回、5,510人の受講があった。また、環境学習地域リーダー養成講座については主催講座で71回、出前講座で4回開催し、延べ1,680人が受講した(15.1%増)。

c. 環境イベント

- ・小・中学生向けの夏のイベントとして、新たに「ECOサマーデイ」を企画し、事前申込制の環境講座と事前申込不要の体験ブースを実施した。並行して、環境パネル展も開催して、啓発に努めた。
- ・冬のエコフェアに替えて「高校生の環境活動交流会」をオンラインで実施した。それぞれの高校での活動を発表し、困っていることや他の学校に聞いてみたいことなども出しあい、他校からアドバイスや意見をもらうなどして高校生同士の交流促進に貢献した。

d. 情報発信

- ・情報紙「環境学習みえ」の年4回発行と毎月10日発信のメールマガジンに加え、ホームページやFacebook等を運用し、適時、情報発信に努めた。

e. 公募事業

- ・「地球温暖化防止啓発ポスターコンクール」を実施した(中学生の部603作品、小学生の部282作品)。
- ・優秀作16作品(小学生の部8作品、中学生の部8作品)を表彰し、三重県総合博物館、三重県上野森林公園、三重県立熊野古道センターで展示を行い、地球温暖化防止について考える機会を提供した。

f. こどもエコクラブ三重県事務局事業

- ・県内の「こどもエコクラブ」の登録会員数は、年間で61クラブ、10,823人となった(前年度比9.5%減)。
- ・各市町担当者への研修会として、5月に「こどもエコクラブ市町担当者研修会」をオンラインで実施し、三重県外のこどもエコクラブの活動について、こどもエコクラブ全国事務局より講演いただいた。
- ・各クラブの活動の様子など1年間の活動をまとめた「令和5年度こどもエコクラブ活動報告集」を作成し、各クラブ等に配布した。
- ・県内のこどもエコクラブの交流を図る「三重県こどもエコクラブ県内交流会2023」では、生活協同組合コープみえにご協力いただき、「国内産の間伐材でお箸を作ろう&お正月用のお箸袋をかざろう!」を実施した。最初に、森林の多面的機能について話を聞き、その後国産材を削ってからそれを磨き、お箸を完成させた。また、お箸袋の飾りつけも行った。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・館内施設について、毎日の巡回点検を励行し、安全管理と設備の維持管理に努めた。

③ 県施策への配慮に関する業務

- a. 人権尊重社会の実現への取組
- ・聴覚や視覚の不自由な方が来館されたときに、受付で筆談の案内や補助犬同伴による利用の案内を実施している。
- b. 男女共同参画社会実現への取組
- ・三重県男女共同参画センター（フレンテ）の「フレンテまつり」に出展し、「UV ビーズと貝がらのストラップ作り」を実施した。この中で、おとなにはオゾンホールに関する啓発を行い、子どもには貝がらなどの自然に親しむことの楽しさを伝えると共に、啓発活動に協力した。
- c. 持続可能な循環型社会の創造に向けた環境保全活動への取組
- ・「食品ロス」をテーマとした講座開催を通じて実践・啓発に努めている。
 - ・事務室内ではリサイクルのため分別に努め、片面しか使用していないコピー用紙の裏面利用も推奨している。また、主催講座でのグループワークでは、掲示の終わったポスターの裏面も模造紙の代用として使用している。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・「三重県環境学習情報センターの管理に関する情報公開実施要領」に基づき適正に対処した。令和5年度においての情報開示請求はなかった。
- ・個人情報保護については「個人情報保護法」を遵守するとともに、「三重県環境学習情報センターの管理に関する基本協定書」第12条に基づく「個人情報保護に関する事項」に従い適正な管理を励行し、アクティオ社内においても「施設個人情報安全対策」に基づき、個人情報保護教育を行った。

⑤ その他の業務

- ・特になし

(2) 施設の利用状況

環境学習情報センターの利用者数

	目標	実績	達成率
令和5年度環境教育参加者数	32,000人	20,826人	65.1%
令和4年度環境教育参加者数	32,000人	24,611人	76.9%
対前年比		84.6%	
利用者内訳			
	回数	人数	(独自目標)
主催講座	113回	2,481人	
出前講座	113回	5,510人	80回以上
学校社会見学	50校	6,110人	35校以上
一般団体見学	7回	109人	
フリー来館・貸室	貸室23回	1,821人	
交流会	9回	370人	
行事等	14回	3,540人	
ポスターコンクール	-	885人	
合計		20,826人	

2 利用料金の収入の実績

・貸室利用は 24 件で、1 件（1800 円）を除き、他の 23 件は減免対象に該当したため無料の使用を許可した。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R4	R5		R4	R5
指定管理料	32,046,570	31,993,572	事業費	29,566,075	29,002,161
利用料金収入	0	1,800	管理費	3,842,903	4,221,064
その他の収入	297,044	237,446	その他の支出	0	0
合計 (a)	32,343,614	32,232,818	合計 (b)	33,408,978	33,223,225
収支差額 (a)-(b)	▲1,065,364	▲990,407			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	83,700 円
---------	----------

4 成果目標とその実績

1 達成すべき成果目標			
項目	目標値	実績	達成率
①環境教育参加者数	32,000 人	20,826 人	65.1%
②児童・生徒を対象とした環境教育参加者数※1	10,000 人	11,466 人	114.7%
③環境学習地域リーダー養成を目的とした講座受講者数※1	1,500 人	1,680 人	112.0%
④環境活動を協働した環境団体数※2	最終年度までに 25 団体以上	25 団体	100.0%※
⑤講座を通じて自発的に環境活動に取り組む意向を示した講座参加者の割合	95%以上	98.9%	104.1%
※1. ②③は①の内数			
※2. ④の達成率は最終年度までの目標に対する達成率			
2 独自で定めた成果目標			
項目	目標値	実績	達成率
「センター通信」等の情報発信数	263 回	340 回	129.3%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度の環境教育参加者数は、令和 4 年度に比べ減少した。これは地元の民間企業等による社会見学の受入れが新型コロナウイルス感染症拡大以前のように戻りつつあったため、その分、当センターの利用が減少したと考えられる。 しかし、児童・生徒を対象とした環境教育参加者数は 11,466 人で、目標値 10,000 人を達成することはできたので、引き続き、利用者の増や自発的に環境活動に取り組む意識の向上に向けて、事業内容のさらなる充実、さまざまな主体との連携に努めていく。 		

5 管理業務に関する自己評価 ※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書や基本協定書に基づき、感染症対策にも留意しつつ、管理業務や事業展開を行い、目標の達成に努めた。 ・また、利用者アンケートに応じて取組内容を見直すなど、業務内容のさらなる改善と利用者満足度の向上にも努めた。
2 施設の利用状況	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育参加者数は減少したが、年度初めに、「環境学習プログラムガイド」を各市町教育委員会を通じて小・中学校や旅行会社へ送付し、社会見学や修学旅行、四日市市少年自然の家での自然教室の際に当センターを活用するなど、取り組んだ。 ・貸室については、令和4年度より8件増加した。環境に関する市民団体等に無料で利用してもらうことで、環境活動を支援している。
3 成果目標及びその実績	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなイベントを開催することが難しい状況があるので、達成すべき成果目標の①環境教育参加者数については目標値を達成できなかったが、②～⑤の目標値、及び独自で定めた成果目標については達成することができた。

※評価の項目「1」の評価:

「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。

「B」→ 業務計画を順調に実施している。

「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。

「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価:

「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。

「B」→ 当初の目標を達成している。

「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。

「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>(1) 成果目標に対する達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理運営の方針に基づき、管理業務、事業展開を行った。成果目標5項目中、1項目が未達成となったものの、社会見学の受け入れや出前講座、オンライン講座の実施、他団体との連携等により、他の項目は目標を達成した。 <p>(2) 残されている課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標の1つである環境教育参加者数の増加に努め、利用者の満足度のさらなる向上に努める。 <p>(3) 翌年度に取り組むべき成果目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育参加者数の増加に向けて学校や他団体との連携をさらに深めていく。 ・オンライン講座等、時代のニーズに合った講座を積極的に実施し、成果目標の達成に努めていく。 <p>(4) その他</p> <p>① 県民ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座参加者や施設利用者に対してアンケート調査を行い、利用者の意見を反映させるよう努めた。 <p>② 県民サービス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中勢、伊賀、紀北の4地域で地球温暖化防止啓発ポスターコンクール入賞作品の展示を行い、県内各地の方々に見ていただけるよう配慮した。 ・主催講座においては会場に集まる対面式だけでなく、オンライン講座も実施し、会場に行けない方や昼間に時間のとれない方でも、自宅などで都合の良い時間に講座を視聴できるようにした。
--------	--

- ・ 出前講座等で実施する環境学習プログラムの内容を整理してわかりやすくし、利用の促進につなげた。
- ・ 講座に関するアンケートでは常に高い満足度の評価をいただいている。

③施設の適正な維持管理の実施

- ・ 施設の適正な維持管理に努めるとともに、自由に使える手指消毒用アルコールの設置を玄関ホールで継続し、来館者に安心してもらえるように配慮した。

④施設利用者の増加

- ・ 社会見学等での来館者増加に向けて、旅行会社への利用案内の送付や小中学校の校長会での配布を行うとともに、近隣施設と連携して広報を行った。その結果、社会見学や自然教室において利用してもらえた。また、市民団体の貸室の利用が増加した。